

7月のみどころ

よく見られる花や動物をピックアップしました。

★印がついた種が見られる場所は裏面地図をご覧ください。

★印が無い種は園内に広く分布しています(見られる場所の例を裏面地図に示しました)。



ネジバナ(ラン科)

ラン科植物には希少種が多い中、本種は草地で普通に見られます。小さな花がらせん状に並んでいて、その巻き方は右巻きも左巻きもあります。



ヤブカンゾウ(ツルボラン科)★

もとはユリ科でしたが、現在はユリ科を分割して新しくできたツルボラン科に属します。おしべとめしべが花弁状に変化して八重咲になります。



ガクアジサイ(アジサイ科)★

花は、中心部の両性花と周辺部の装飾花から成ります。目立つ装飾花は、花粉を媒介する昆虫をひきつける効果があると考えられています。<植栽>



ヌマトラノオ(サクラソウ科)★

6月のみどころで紹介した同属のオカトラノオが丘で生育するのに対し、本種は湿地で生育します。花の穂はオカトラノオのように垂れませんが。<植栽>



ヘクソカズラ(アカネ科)

つる性の草本です。葉や茎を傷つけると悪臭を放つのでこんな名前がつけました。花の中心部の色がお灸の跡に似ているのでヤイトバナの別名があります。



ネムノキ(マメ科)★

夜になると葉が合わさって閉じる様子が眠るようなのでこの名前がつけました。花を色鮮やかにしているのは花びらではなく多数の長いおしべです。



イソノキ(クロウメモドキ科)

花は小さいうえに少ししか開きませんがハチやチョウなどの昆虫に人気があり、メジロなどの野鳥も来ます。



リョウブ(リョウブ科)

林内に多く自生し、花はよい香りを放ちます。薄い樹皮が自然に剥がれ、特徴的なまだら模様の木肌になります。



シャシャンボ(ツツジ科)

園内に自生する常緑の低木です。ブルーベリー-のなかまで、黒く熟した実は食べられます。



クチナシ(アカネ科)★

強い芳香のある白い花を咲かせます。乾燥した果実は薬になるほか、着色料としても利用されますが、八重咲きには実はありません。<植栽>



コムラサキ(シソ科)★

園内では近縁の自生種ムラサキシキブも同じ時期に花を咲かせます。どちらも秋には美しい紫色の実をつけますが、本種の方が見応えがあります。<植栽>



ショウジョウトンボ(トンボ科)★

真っ赤なトンボですが、分類学的にはアカトンボのなかま(アカネ属)ではありません。



チョウトンボ(トンボ科)★

その名のとおりチョウのようにふわふわと飛びます。翅のメタリックな色彩が独特です。



モンキアゲハ(アゲハチョウ科)

名前はモンキ(紋舞)ですが、白い斑紋が後翅にあります。ほかの黒いアゲハチョウとはこの斑紋で見分けられます。



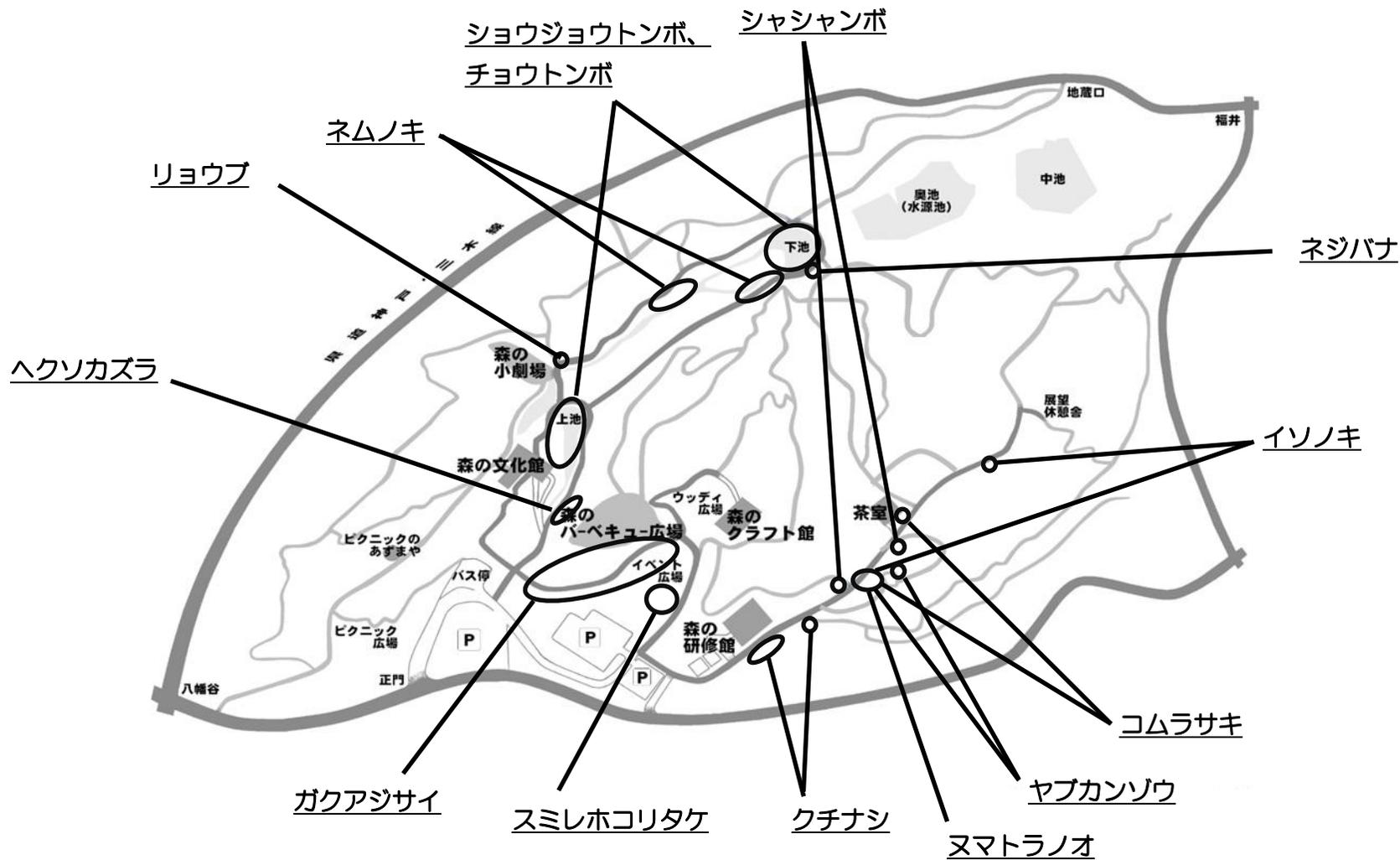
スミレホコリタケ(ホコリタケ科)★

ゴルフボールに似ているせいか、発生するとすぐ蹴飛ばされてしまいます。成熟すると紫色の胞子がほこりのように飛び始めます。

Mikiyama

兵庫県立三木山森林公園

三木山森林公園 検索
カラー写真入りの「みどころ情報」を
HPにて掲載しています



6月のみどころ

よく見られる花や動物をピックアップしました。

★印がついた種の生育場所は裏面地図をご覧ください。★印の無いものは園内に広く分布しています。



ハンゲショウ(ドクダミ科)★
名前の由来は暦の「半夏生」の頃に花が咲くからとする説と、花を咲かせる頃、葉の一部が白く変化するから「半化粧」とする説があります。<植栽>



ミクリ(ガマ科)★
雌花と雄花が別れて咲きます。実がクリのイガに似ているためミクリ(実栗)と呼ばれます。環境省の準絶滅危惧種に指定されています。<植栽>



オカトラノオ(サクラソウ科)★
白い花が、下の方から先端に向かって順に咲いていきます。虎の尾のようでしょうか？<植栽>



ツルアリドオシ(アカネ科)
小さなツル性草本で、林内の地面を這います。花や葉がよく似たアリドオシという木にはとげがあり、その名の由来になっていますが、本種にはとげはありません。



タツナミソウ(シソ科)
花の形が打ち寄せる波のようなのでこう名付けられました。漢字で表すと「立浪草」です。



タイサンボク(モクレン科)★
北米原産の常緑高木で、芳香のある大きな花を咲かせます。一つの花の花期は短いけれど長期間にわたり次々と花が咲きます。<植栽>



クリ(ブナ科)
黄白色の穂は雄花の集まりで、実になる雌花はこの穂の基部につきます。花は独特のにおいで虫を誘引し、受粉に利用します。



アカメガシワ(トウダイグサ科)
新芽が鮮紅色で、葉がカシワのように大きくなるのでこの名がつけました。雄花を付ける雄株と、雌花を付ける雌株があります。



ボダイジュ(アオイ科)★
よい香りの花がたくさん咲き、虫たちに人気があります。釈迦が悟りを開いた菩提樹はクワ科のインドボダイジュで、別の樹木です。<植栽>



ヤマボウシ(ミズキ科)★
一つの花のように見えるものの真ん中に20~30個の花が密集しています。白のは花卉ではなく総苞片と言います。<植栽>



ネジキ(ツツジ科)
幹がねじれる特徴があり、この名がつけました。花は下向きですが、これが実になると上向きになっています。アセビと同様の有毒植物です。



ソヨゴ(モチノキ科)
風にそよいでカサカサと特徴的な音をたてるのでこの名がつけられたと言われています。雄花を付ける雄株と、雌花を付ける雌株があります。



コシアキトンボ(トンボ科)
水辺でよく見かけるトンボです。腹部が白く、空いている様に見えるのでこう呼ばれます。



ババシロアシマルハバチ(ハバチ科)幼虫★
ゴマギの葉に付いています。体にまとっている白いものは、体から分泌されたワックスです。かわいい顔をしています。

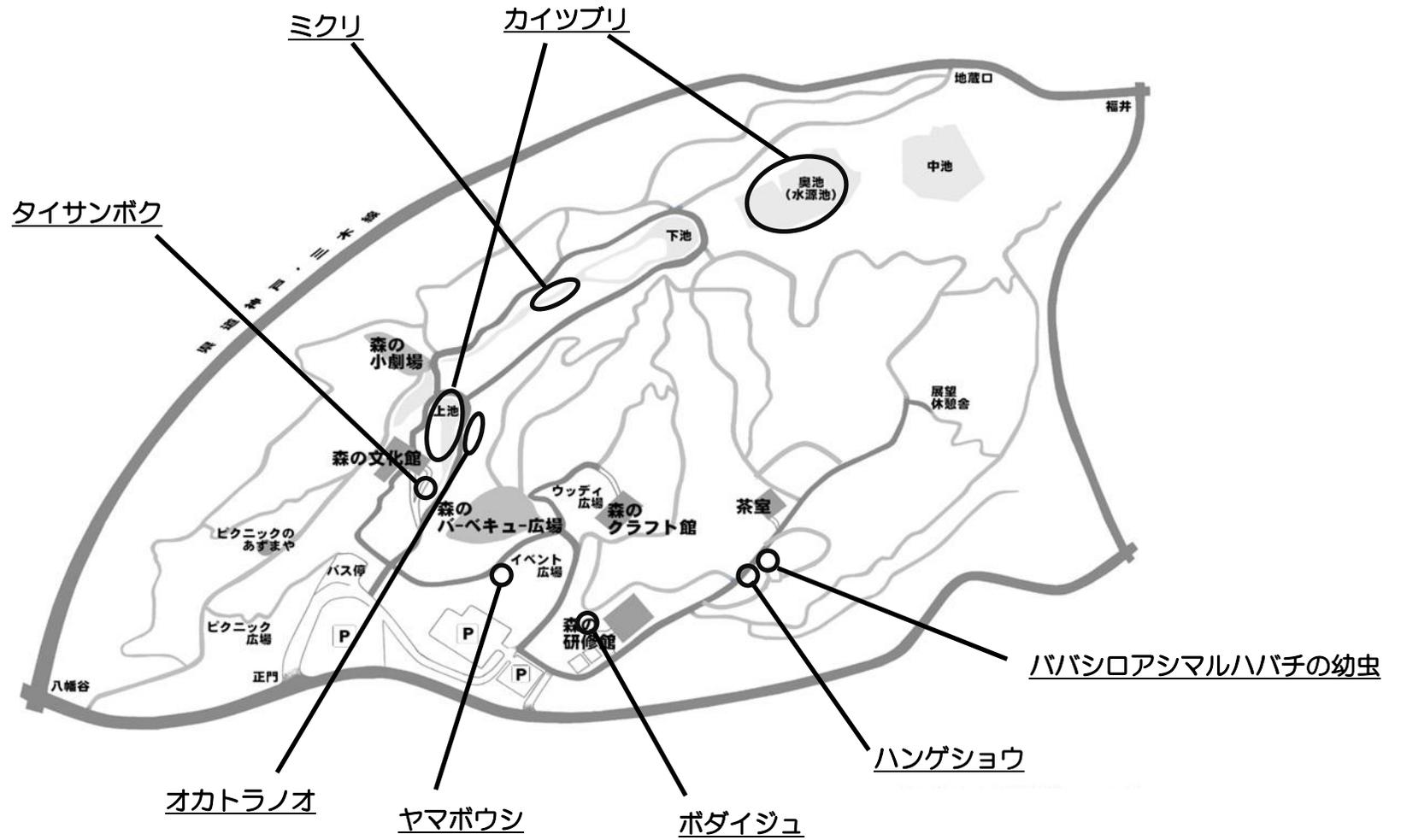


カイツブリ(カイツブリ科)★
奥池(水源地)や上池ではカイツブリがよく繁殖を試み、この時期ヒナを育てる姿が見られることがあります。

Mikiyama

兵庫県立三木山森林公園

三木山森林公園 検索
カラー写真入りの「みどころ情報」を
HPにて掲載しています



5月のみどころ

よく見られる花や動物をピックアップしました。

★印がついた種の生育場所は裏面地図をご覧ください。★印の無い植物は園内に広く分布しています。



カラタネオガタマ(モクレン科)★

漢字で表すと「唐種招霊」。中国原産で別名はトウオガタマ。花はバナナのような香りがします。〈植栽〉



ユリノキ(モクレン科)★

原産地は北米。花の形からチューリップツリー、また葉の形からハンテンボク(半纏木)とも呼ばれます。花は高い場所に咲き、たくさん蜜を出します。〈植栽〉



エニシダ(マメ科)★

原産地はヨーロッパ、北アフリカ、アジアの一角。緑化樹、肥料木として植えられ、野生化していることもあります。〈植栽〉



フジ(マメ科)★

ツル性の木本です。別名はノダフジ(野田藤)。大阪市福島区の野田がかつてフジの名所だったところからきています。



アズキナシ(バラ科)

秋に赤く熟す果実がナシに似ていて、アズキほどの大きさなのでこの名がついたという説があります。



スタジイ(ブナ科)

雄花と雌花があります。雄花は新枝の下部で垂れ下がるように咲き、独特の強い香りで虫を誘います。雌花は新枝の上部につきます。



クロバイ(ハイノキ科)★

常緑の葉は暗い緑で、白い花がよく目立ちます。クロバイは黒灰。この木の灰は染色のための薬剤に利用されました。



エゴノキ(エゴノキ科)★

果実は有毒で、口に入れると喉や舌を刺激してえぐい(えごい)のでこの名前がつきました。



モチツツジ(ツツジ科)

里山の代表的なツツジの一つです。新芽や花柄などが鳥もちの様にねばつくことからこう呼ばれています。



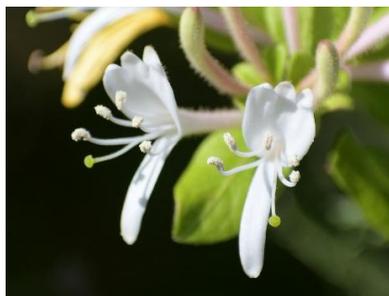
テイカカズラ(キョウチクトウ科)★

常緑のツル性の木本で、花がプロペラの様に捻れています。「テイカ」は歌人、藤原定家のこととされています。



ヒツバタゴ(モクセイ科)★

別名はナンジャモンジャノキ。国内では岐阜県などの限られた地域にしか自生しない希少種で、園内にあるのは移植されたものです。〈植栽〉



スイカズラ(スイカズラ科)

細長い花筒の奥に蜜があり、その蜜を吸うツル植物ということで吸い葛(スイカズラ)と呼ばれるようになったそうです。



カキツバタ(アヤメ科)★

花びらの中央が白くなっている点でハナショウブやアヤメと区別します。〈植栽〉



シャガ(アヤメ科)★

古い時代に中国からもたらされた帰化植物です。林内のやや湿った場所に群生します。



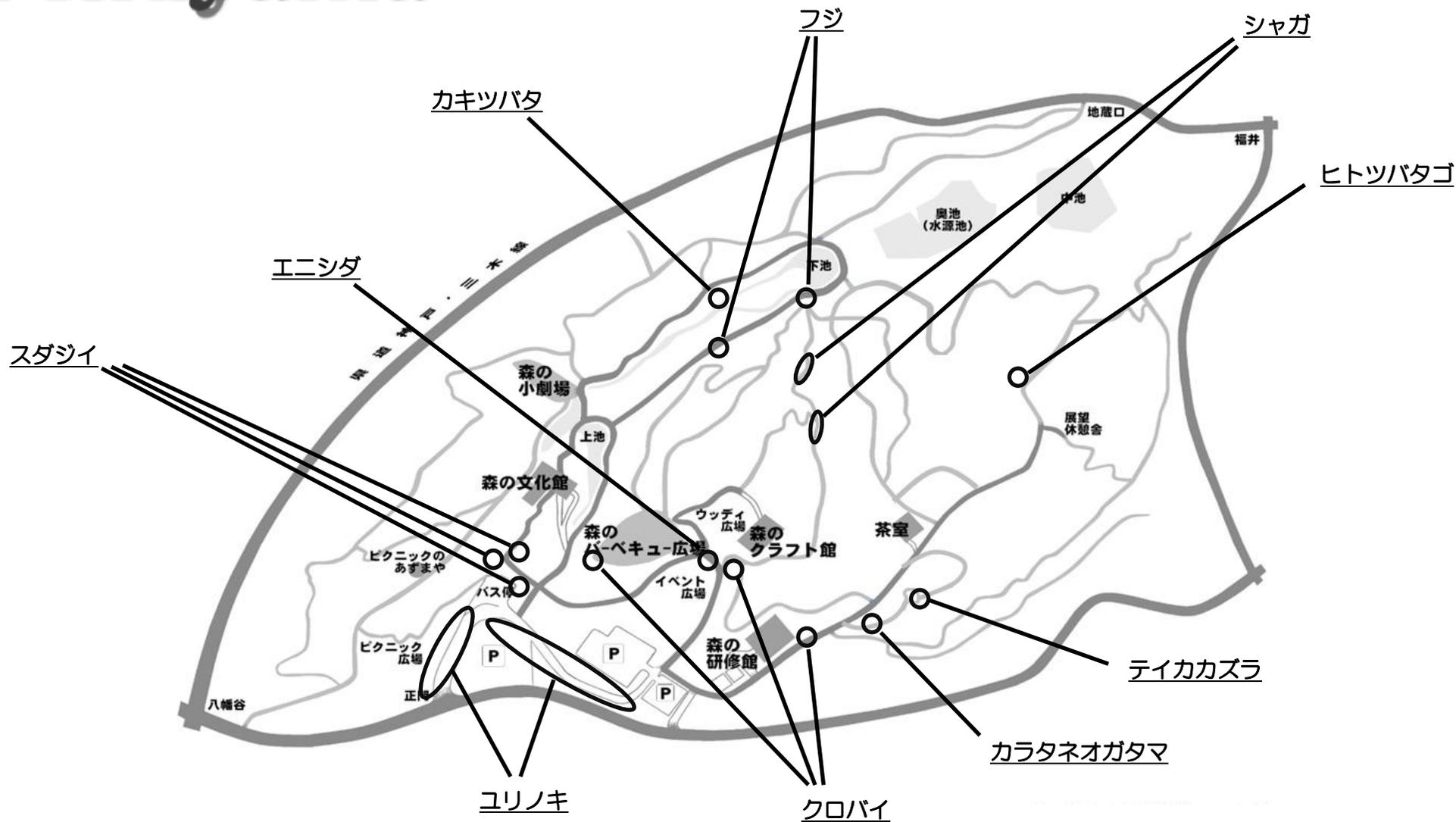
モリアオガエル(アオガエル科)卵塊

兵庫県の絶滅危惧種に指定されているモリアオガエルは、水面の上にかぶさった枝に産卵します。

Mikiyama

兵庫県立三木山森林公園

三木山森林公園 検索
カラー写真入りの「みどころ情報」を
HPにて掲載しています



4月のみどころ

よく見られる花をピックアップしました。

★印がついた種の生育場所は裏面地図をご覧ください。★印の無いものは園内に広く分布しています。



サルトリイバラ(サルトリイバラ科)

茎に鋭いトゲを持つツル性植物で、薄黄緑色の小さな花が咲きます。サンキライとも呼ばれます。



ミツバアケビ(アケビ科)

秋に甘い実をつけるツル性植物。上方で大きく開いているのが実になる雌花、その下に集まっているのが雄花です。



カスミザクラ(バラ科)★

この地域に自生するサクラの一つ。葉の展開と同時に開花し、花柄や葉柄に毛があるのが特徴です。



ザイフリボク(バラ科)★

花の形を、武将が戦の時に持つ采配(さいはい)に見立てて采振木(さいふりま)と呼ばれます。



イロハモミジ(ムクロジ科)★

雄しべと雌しべがある両性花と雄しべだけの雄花が1本の木の中にあります。もみじ谷にたくさん植栽されています。



ヒサカキ(モッコク科)

小さいことを表す「姫」をつけた姫サカキが名前の由来と言われます。花は都市ガスに似た独特の強い匂いを放ちます。



コバノミツバツツジ(ツツジ科)★

当公園のコバノミツバツツジ群落は、令和5年に植物群落としては三木市初の市指定天然記念物に指定されました。例年初旬が見頃です。



ドウダンツツジ(ツツジ科)★

秋の紅葉が見事ですが、春は可憐な花を咲かせます。森の研修館前に植栽されています。



ガマズミ(ガマズミ科)

春の里山林でよく目にする花木の一つです。秋には鮮やかな赤い実をつけます。



ショウジョウバカマ(シュロソウ科)★

ピンク色、紫色、白色の花を咲かせます。人里から高山帯まで広く分布しています。



ムラサキケマン(ケシ科)★

林内のやや湿った場所に群生します。有毒植物ですがウスバシロチョウ(当園にはいません)の幼虫の食草になります。



シハイスミレ(スミレ科)

園内でよく目にするスミレの一つです。葉裏が紫色なので「紫背(しはい)」スミレと名付けられました。



キランソウ(シソ科)★

可憐な花なのに別名はジゴクノカマノフタ。地面にへばりつくように放射状に広がる葉を「地獄の釜のふた」に見立てたものです。



サギゴケ(サギゴケ科)★

花の形が、サギが飛んでいるようで、コケのように広がって生育することが名前の由来です。別名はムラサキサギゴケですが花が白色のものもあります。



カンサイタンポポ(キク科)

当公園には日本在来のカンサイタンポポがたくさん生育しています。外来のセイヨウタンポポと異なり、総苞片(そうほうへん)(写真の矢印の部分)が反り返りません。

Mikiyama

兵庫県立三木山森林公園

三木山森林公園 検索
カラー写真入りの「みどころ情報」を
HPにて掲載しています

